

HANDBOOK OF CHILD PSYCHOLOGY
AND DEVELOPMENTAL SCIENCE, 7th edition
— edited by Richard M. Lerner (Editor-in-chief), Tufts University

児童心理学 発達科学 ハンドブック

監訳

二宮克美

(愛知学院大学客員教授)

編集

河合優年

(武庫川女子大学教授)

小塩真司

(早稲田大学教授)

子安増生

(京都大学名誉教授)

服部 環

(法政大学教授)

仲 真紀子

(立命館大学教授)

郷式 徹

(龍谷大学教授)

根ヶ山光一

(早稲田大学名誉教授)

山 祐嗣

(大阪市立大学教授)

氏家達夫

(名古屋大学名誉教授)

2022年5月刊行!!

発達心理学の権威あるハンドブックが
第7版にして、待望の本邦初訳！

【全4巻(8冊)+索引(別冊) / B5判・上製・函入 / 総頁6,000頁(予)】

◎定価 220,000円(税込)

ISBN978-4-571-23510-8 ※本書はセット販売のみになります

福村出版

本ハンドブックを推薦します

Handbook of Child Psychology and Developmental Science 第7版 (Wiley) の完訳が、『児童心理学・発達科学ハンドブック』としていよいよ福村出版から刊行されます。一般社団法人日本発達心理学会代表理事として、出版社や監修者、編者をはじめ、翻訳プロジェクトに携わられた多くの方々の努力と熱意に敬意と謝意を表します。そしてこの本を、発達心理学・発達科学の研究者や研究者を志している院生・学生、さらに発達実践に関わっておられるすべての方々に推薦します。発達心理学や発達科学に何らかの形で関わっている方々にとっての必読書の一つとなると確信しています。

原書は、4巻全88章からなる大部で、100人を超える発達心理学や関連領域の専門家が翻訳を担当しています。翻訳作業はとても骨の折れる仕事であったと推察します。各章の議論や研究レビューを正確に日本語に翻訳するためには、単に専門的で幅広い内容を理解するだけではなく、各章で展開される議論やそこで紹介される一つ一つの研究の背景にある理論的問題や、時には複雑でデリケートな社会文化的、歴史的問題についての理解も必要になります。監修者、編者、そして翻訳を担当してくださった方々のご苦労は並大抵のものではなかったと思います。

原書は、1946年のManual of Child Psychologyにさかのぼることができます。発達研究の進展、拡大を反映して、版を重ねるごとに分量が大きくなり、書名を変えて現在の第7版のHandbook of Child Psychology and Developmental Scienceに至ります。私も、院生時代、Carmichael's Manual of Child Psychology (1970) の2冊にはずいぶんお世話になりました。それ以来、版が変わるごとに内容にざっと目を通し、さらに新たな研究計画を立てるときの一つの指針としてきました。この本は定期的に内容が更新されますので、章立てや紹介される研究は、発達心理学・発達科学のトレンドを知る手がかりを提供してくれます。特に私にとっては、理論や方法論のしっかりした議論と展望が役に立ちました。とはいえ、原書で‘Handbook’を読みこなすのは、正直大変な作業でした。それが、この翻訳プロジェクトのおかげで日本語で読めるのですから、とてもありがたいことだと思います。

第7版は、はじめて書名にDevelopmental Scienceが加えられました。発達研究は、心理学の枠組みを超えて、脳科学や分子生物学、遺伝学、工学など自然科学との融合が進んでいます。また発達に関わる問題は、政治や社会経済状況の影響を強く受けますので、発達研究の視点は常に拡大してきています。この本は、そんな発達研究の状況を知る上でとても役に立つと思います。研究者を志している院生・学生にとって恰好の入門書であり、研究の指針を提供してくれるはずです。現役の研究者にとっても、さまざまなアイディアをインスピライってくれると思いますし、新たな研究の地平を開く手助けになると期待できます。実践に関わっている方々にとっては、実践に役立つ多様な研究知見のデータベースとして利用できます。発達に関わる多くの方々がこの本に触れ、研究や実践をさらに推し進めてくれることを心から願っています。

日本発達心理学会理事長 氏家達夫



日本語版刊行の辞

長年の夢だった『児童心理学・発達科学ハンドブック(第7版)』全ページを日本語で読めることになりました。画期的な企画であり、刊行できたことはとてもうれしい限りです。

本書の「まえがき」で、デイモンはこの本の歴史について次のように述べています。

1931年のマーチソン編『児童心理学ハンドブック』が本シリーズの歴史の夜明けでした。その後、1946年にカーマイケルの『児童心理学マニュアル』が後を引き継ぎましたが、「この分野で優れた多様な基礎的教科書と科学雑誌の学術論文との隙間を橋渡しする進歩的な科学的手引き」を意図したものでした。1970年にマッセンが第3版(2巻本)を引き継ぎ、ピアジェの認知発達理論、精神分析、学習理論という3つの巨大なシステムにそって構成し、「幼児はどのように心理学的におとなになるのかの問題」について説明できる変化のメカニズムを扱いました。さらに、マッセンは1983年に第4版となる『児童心理学ハンドブック』(4巻本)において研究のトピックを拡大し、臨床的で教育的な介入の基礎として発達理論を適用する試みをしました。デイモンによる1998年版(第5版)は、理論、認知と言語、社会性とパーソナリティ、実践の児童心理学という4巻構成となりました。さらに2006年(第6版)では、この枠組みに加えて、若者の肯定的発達アプローチ、芸術的発達、信仰などの問題が扱われました。

今回訳出したラーナーによる2016年の第7版では、「発達科学」という用語がタイトルに追加され、ラーナーによる序文には、個人と文脈が関連する相対的な可塑性についての考えに基づき、生涯を通して個人と文脈のダイナミックな相互作用を考える「関係発達システム理論」を取り上げたことが述べられ、児童心理学や発達心理学の枠を超えて、人間発達研究に広げられました。「理論と方法」「認知過程」「社会情動の過程」「生態学的情況と過程」の4巻からなり、全88章の構成です。どの章を取っても、発達心理学のみならず広く発達科学を研究するものにとっては、自分の研究の立ち位置を理解する上で必読でしょう。

個人的には、二宮は自分の名前を第5版で見つけたとき、感激したのを覚えています。今回の第7版でも日本の研究者の名前が何人か取り上げられています。今後も日本の発達科学領域の研究が活発になり、日本発の論文が多く引用されることを願っています。

最後になりますが、このように質・量ともに巨大な本を訳出した訳者の皆さんと閲読をした各巻の編者の皆さんのご尽力に厚く御礼申し上げます。また、出版状況の厳しい中、勇敢にも翻訳の刊行に踏み切られた福村出版の英断に心より敬意と感謝の辞を申し上げます。

訳者を代表して 二宮克美・子安増生





特徴・特色

最新の理論的発展と実証的分析に必要な質的・量的方法論と混合研究法についての考え方を詳述。これまでわが国ではあまりなじみのなかった領域が扱われており、発達理論についてもその源から議論されている。各章が一貫して、生涯にわたる発達システムの動的相互作用に重点を置いて論じていて、発達科学研究に起きたパラダイム・シフト、そして人間独自の発達に関する関係発達システム理論の概念的な枠組みを学ぶことができる。

—上巻—

Foreword to the Handbook of Child Psychology and Developmental Science, Seventh Edition 二宮克美（愛知学院大学）

Preface 服部 環（法政大学）

1 CONCEPTS, THEORY, AND METHOD IN DEVELOPMENTAL SCIENCE: A VIEW OF THE ISSUES

Willis F. Overton and Peter C. M. Molenaar

発達科学における概念の理論と方法

—問題の整理

無藤 隆（白梅学園大学名誉教授）／伊藤理絵（常葉大学）

2 PROCESSES, RELATIONS, AND RELATIONAL-DEVELOPMENTAL-SYSTEMS

Willis F. Overton

過程・関係的、そして関係の一発達的－システム

河合優年（武庫川女子大学）／桝形公也（武庫川女子大学名誉教授）／

寺井朋子（武庫川女子大学）

3 DYNAMIC SYSTEMS IN DEVELOPMENTAL SCIENCE

David C. Witherington

発達科学におけるダイナミックシステムズ

陳 省仁（光塩学園女子短期大学）

4 DYNAMIC DEVELOPMENT OF THINKING, FEELING, AND ACTING

Michael F. Mascolo and Kurt W. Fischer

思考、感情、行為のダイナミックな発達

山本裕二（名古屋大学）

5 BIOLOGY, DEVELOPMENT, AND HUMAN SYSTEMS

Robert Lickliter and Hunter Honeycutt

生物学・発達・人間システム

安藤寿康（慶應義塾大学）

6 ETHOLOGY AND HUMAN DEVELOPMENT

Patrick Bateson

比較行動学とヒトの発達

小山高正（日本女子大学名誉教授）

7 NEUROSCIENCE, EMBODIMENT, AND DEVELOPMENT

Peter J. Marshall

神経科学、身体化、そして発達

岡林春雄（徳島文理大学）

8 THE DEVELOPMENT OF AGENCY

Bryan W. Sokol, Stuart I. Hammond, Janet Kuebli, and Leah Sweetman

エージェンシーの発達

宮下孝広（白百合女子大学）

9 DIALECTICAL MODELS OF SOCIALIZATION

Leon Kuczynski and Jan De Mol

社会化の弁証法的モデル

玉井航太（北海商科大学）

10 HUMAN DEVELOPMENT AND CULTURE

Jayanthi Mistry and Ranjana Dutta

人間発達と文化

川田 学（北海道大学）

11 EMOTIONAL DEVELOPMENT AND CONSCIOUSNESS

Michael Lewis

情動発達と意識

小原倫子（岡崎女子大学）／中山留美子（奈良教育大学）

—下巻—

12 DEVELOPMENT OF PERSONAL AND CULTURAL IDENTITIES

Michael J. Chandler and William L. Dunlop

**個人的アイデンティティと
文化的アイデンティティの発達**

中間玲子（兵庫教育大学）／横山 香（奈良大学）／宮川弘美

13 MORAL DEVELOPMENT

Elliot Turiel

道徳性の発達

山岸明子（前順天堂大学）／吉岡昌紀（清泉女子大学）

14 DEVELOPMENT AND SELF-REGULATION

Megan M. McClelland, G. John Geldhof, Claire E. Cameron, and Shannon B. Wanless

発達と自己調整

鈴木亜由美（広島修道大学）

15 DEVELOPMENTAL PSYCHOPATHOLOGY

E. Mark Cummings and Kristin Valentino

発達精神病理学

青木紀久代（白百合心理・社会福祉研究所）

16 POSITIVE YOUTH DEVELOPMENT AND RELATIONAL-DEVELOPMENTAL-SYSTEMS

Richard M. Lerner, Jacqueline V. Lerner, Edmond P. Bowers, and G. John Geldhof

**青少年のポジティブな発達－関係－
発達－システム**

堀毛一也（東洋大学）／松田英子（東洋大学）

17 SYSTEMS METHODS FOR DEVELOPMENTAL RESEARCH

Peter C. M. Molenaar and John R. Nesselroade

発達研究のシステム法

山田剛史（横浜市立大学）

18 NEUROSCIENTIFIC METHODS WITH CHILDREN

Michelle de Haan

小児を対象とした神経科学的手法

阿部修士（京都大学）

19 MIXED METHODS IN DEVELOPMENTAL SCIENCE

Patrick H. Tolan and Nancy L. Deutsch

発達科学における混合法

尾崎幸謙（筑波大学）／莊島幸子（帝京平成大学）

20 GROWTH CURVE MODELING AND LONGITUDINAL FACTOR ANALYSIS

Nilam Ram and Kevin J. Grimm

成長曲線モデルと縦断的因子分析

宇佐美 慧（東京大学）

21 PERSON-ORIENTED METHODOLOGICAL APPROACHES

Alexander von Eye, Lars R. Bergman, and Chueh-An Hsieh

個人志向的な方法論によるアプローチ

室橋弘人（金沢学院大学）



特徴・特色

知覚、運動、注意、記憶、言語、概念、推理などの伝統的な認知のカテゴリから、遊び、シンボル的表象、身振り、社会的理解、実行機能、時間認知、科学的思考、数学的推理、リテラシー、ジェンダー、芸術に至るまでの発達を含む。どの章も最近の研究を網羅しつつ、認知が個人の頭の中でだけ生じるのではなく、生物学的かつ社会文化的な文脈に埋め込まれ、これらの文脈との恒常的な交流を通して発達することを強調している。

——上巻——

Preface 郷式 徹（龍谷大学）

1 REFLECTIONS ON COGNITIVE DEVELOPMENT

Lynn S. Liben and Ulrich Müller

認知発達についての省察

子安生（京都大学名誉教授）

2 BRAIN AND COGNITIVE DEVELOPMENT

Joan Stiles, Timothy T. Brown, Frank Haist, and Terry L. Jernigan

脳と認知の発達

皆川泰代（慶應義塾大学）

3 PERCEPTUAL DEVELOPMENT

Scott P. Johnson and Erin E. Hannon

知覚発達

金子利佳（コングレ・グローバルコミュニケーションズ）

4 MOTOR DEVELOPMENT

Karen E. Adolph and Scott R. Robinson

運動発達

萱村俊哉（武庫川女子大学）

5 ATTENTIONAL DEVELOPMENT

Jelena Ristic and James T. Enns

注意の発達

郷式 徹（龍谷大学）

6 MEMORY DEVELOPMENT

Mark L. Howe

記憶の発達

清水寛之（神戸学院大学）

7 THE DEVELOPMENT OF SYMBOLIC REPRESENTATION

Tara Callaghan and John Corbit

シンボル的表象の発達

加藤義信（愛知県立大学名誉教授）／木村美奈子（名城大学）／

瀬野由衣（愛知県立大学）

8 LANGUAGE DEVELOPMENT

Brian MacWhinney

言語発達

大伴 潔（東京学芸大学）

9 GESTURE AND COGNITIVE DEVELOPMENT

Susan Goldin-Meadow

身振りと認知発達

西尾 新（甲南女子大学）

10 THE DEVELOPMENT OF SOCIAL UNDERSTANDING

Jeremy I. M. Carpendale and Charlie Lewis

社会的理解の発達

林 創（神戸大学）／東山 薫（龍谷大学）／郷式 徹（龍谷大学）

11 THE DEVELOPMENT OF PLAY

Angeline S. Lillard

遊びの発達

加用文男（京都教育大学名誉教授）

——下巻——

12 CONCEPTUAL DEVELOPMENT

Vladimir Sloutsky

概念発達

落合正行（前追手門学院大学）／石王敦子（追手門学院大学）

13 THE DEVELOPMENT OF REASONING

Robert B. Ricco

推理の発達

山 祐嗣（大阪市立大学）

14 THE DEVELOPMENT OF EXECUTIVE FUNCTION

Ulrich Müller and Kimberly Kerns

実行機能の発達

森口佑介（京都大学）

15 THE DEVELOPMENT OF TEMPORAL COGNITION

Teresa McCormack

時間認知の発達

松田文子（福山大学）

16 THE DEVELOPMENT OF SCIENTIFIC THINKING

Richard Lehrer and Leona Schauble

科学的思考の発達

中島伸子（新潟大学）

17 THE DEVELOPMENT OF MATHEMATICAL REASONING

Terezinha Nunes and Peter Bryant

数学的推論の発達

石田淳一（東京家政大学）

18 LITERACY DEVELOPMENT

Christopher J. Lonigan

リテラシーの発達

高橋 登（大阪教育大学）

19 GENDER AND SOCIAL-COGNITIVE DEVELOPMENT

Campbell Leaper

ジェンダーと社会的・認知的発達

湯川隆子（三重大学名誉教授）

20 COGNITIVE DEVELOPMENT AND CULTURE

Mary Gauvain and Susan Perez

認知発達と文化

矢野喜夫（京都教育大学名誉教授）

21 ARTISTIC DEVELOPMENT

Constance Milbrath, Gary E. McPherson, and Margaret S. Osborne

芸術の発達

齋藤亜矢（京都芸術大学）／谷口高士（大阪学院大学）

22 MEDIA AND COGNITIVE DEVELOPMENT

Daniel R. Anderson and Heather L. Kirkorian

メディアと認知発達

高比良美詠子（立正大学）

23 ATYPICAL COGNITIVE DEVELOPMENT

Bruce F. Pennington

非定型認知発達

船曳康子（京都大学）／嶋田容子（同志社大学）



特徴・特色

発達の背景にある生物学的、進化的、社会的な要因に焦点をあてつつ、出生後の他者との相互作用を経て人々が見せるようになる、情動、パーソナリティ、自己、家族、子どもと法、虐待、差別、仲間関係、ジェンダーやセクシャリティなど多様な側面について論じる。本巻で紹介する領域は、近年盛んに研究され多くの論文として結実してきたものである。各章はその膨大な研究を背景とし、包括的なレビューを試みている。

——上 卷——

Preface 小塩真司（早稲田大学）／仲 真紀子（立命館大学）

1 PROCESSES UNDERLYING SOCIAL, EMOTIONAL, AND PERSONALITY DEVELOPMENT:
A PRELIMINARY SURVEY OF THE TERRAIN

Michael E. Lamb

社会・情動・パーソナリティ発達の基礎をなす過程—この領域の予備的概観

小塩真司（早稲田大学）

2 MEASURING SOCIOEMOTIONAL DEVELOPMENT

Celia A. Brownell, Elizabeth A. Lemerise, Kevin A. Pelphrey, and Glenn I. Roisman
社会情動発達を測定する

高橋雄介（京都大学）

3 EVOLUTION AND PREGNATAL DEVELOPMENT: AN EVOLUTIONARY PERSPECTIVE

David A. Coall, Anna C. Callan, Thomas E. Dickins, and James S. Chisholm

進化と出生前発達—進化的パースペクティブ

竹下秀子（追手門学院大学）

4 PSYCHONEUROENDOCRINOLOGY OF STRESS: NORMATIVE DEVELOPMENT AND INDIVIDUAL DIFFERENCES

Megan R. Gunnar, Jenalee R. Doom, and Elisa A. Esposito

ストレスの精神神経内分泌学—標準的発達と個人差

木村健太（産業技術総合研究所）

5 TEMPERAMENT AND PERSONALITY

Xinyin Chen and Louis A. Schmidt

気質とパーソナリティ

国里愛彦（専修大学）

6 RELATIONSHIPS, REGULATION, AND EARLY DEVELOPMENT

Ross A. Thompson

関係性、制御、そして初期発達

矢藤優子（立命館大学）

7 RESILIENCE AND ADVERSITY

Suniya S. Luthar, Elizabeth J. Crossman, and Phillip J. Small

レジリエンスと逆境

小花和 W. 尚子（武庫川女子大学）

8 SOCIOEMOTIONAL CONSEQUENCES OF ILLNESS AND DISABILITY

Keith Crnic and Cameron Neese

疾患および障害がもたらす社会情緒的帰結

蒲谷慎介（愛知淑徳大学）

9 DEVELOPMENTAL IMPLICATIONS OF DISCRIMINATION

Amy K. Marks, Kida Ejesi, Mary Beth McCullough, and Cynthia García Coll

差別が発達にもたらすこと

戸田有一（大阪教育大学）／橋本祐子（関西学院大学）

10 RACE, CLASS, AND ETHNICITY IN YOUNG ADULTHOOD

Vonnie C. McLoyd, Kelly M. Purtell, and Cecily R. Hardaway

青年期における人種、階層、エスニシティ

伊藤哲司（茨城大学）

11 SOCIOEMOTIONAL DEVELOPMENT IN CHANGING FAMILIES

Susan Golombok and Fiona Tasker

変わりゆく家族における社会情動的発達

宇都宮 博（立命館大学）

——下 卷——

12 CHILDREN AND THE LAW

Michael E. Lamb, Lindsay C. Malloy, Irit Hershkowitz, and David La Rooy

子どもと法

仲 真紀子（立命館大学）

13 CHILD MALTREATMENT

Dante Cicchetti and Sheree L. Toth

子どものマルトリートメント（虐待＆ネグレクト）

宮本信也（白百合女子大学）／溝口史剛（前橋赤十字病院）

14 A SOCIAL PERSPECTIVE ON THEORY OF MIND

Claire Hughes and Rory T. Devine

心の理論の社会的視点

溝川 藍（名古屋大学）

15 PROSOCIAL DEVELOPMENT

Nancy Eisenberg, Tracy L. Spinrad, and Ariel Knafo-Noam

向社会性の発達

首藤敏元（埼玉大学）／登張真福音（文教大学）／今岡多恵（常葉大学）

16 DEVELOPMENT OF ACHIEVEMENT MOTIVATION AND ENGAGEMENT

Allan Wigfield, Jacquelynne S. Eccles, Jennifer A. Fredricks, Sandra Simpkins, Robert W. Roeser, and Ulrich Schiefele

達成動機づけと関与の発達

橋 良治（前岐阜大学）／橋 春菜（名古屋大学）

17 ORIGINS AND DEVELOPMENT OF MORALITY

Melanie Killen and Judith G. Smetana

道徳性の起源と発達

長谷川真里（東北大学）

18 DEVELOPMENT OF THE SELF

Margaret Beale Spencer, Dena Phillips Swanson, and Vinay Harpalani

自己の発達

松本由起子（北海道医療大学）

19 AGGRESSIVE AND VIOLENT BEHAVIOR

Manuel P. Eisner and Tina Malti

攻撃行動と暴力

大渕憲一（東北大学名誉教授）

20 GENDERED DEVELOPMENT

Melissa Hines

ジェンダー化の発達

伊藤裕子（文京学院大学名誉教授）／相良順子（聖徳大学）

21 THE DEVELOPMENT OF SEXUALITY

Lisa M. Diamond, Susan B. Bonner, and Janna Dickenson

セクシャリティの発達

土肥伊都子（神戸松蔭女子学院大学）／上野淳子（四天王寺大学）

22 FRIENDSHIPS, ROMANTIC RELATIONSHIPS, AND PEER RELATIONSHIPS

Wyndol Furman and Amanda J. Rose

友人関係、恋愛関係、仲間関係

金政祐司（追手門学院大学）／相馬敏彦（広島大学）

23 RELIGIOUS AND SPIRITUAL DEVELOPMENT

Pamela Ebstyne King and Chris J. Boyatzis

宗教性およびスピリチュアリティの発達

西脇 良（南山大学）



特徴・特色

子どもは家庭での親との関係から始まり、家庭外での子ども同士、保育園や幼稚園・学校における先生、地域の隣人、職場の同僚、さらにメディア環境からの影響など、発達についてその環境・対人関係を順次拡大・多様化させていく。また社会経済的地位、医療、法律、政策、戦争・災害、文化、歴史といった諸文脈も発達と深く関わる。この巻は関係発達システムの視点から、これらの問題について最新の知見を広く紹介している。

——上巻——

Preface 根ヶ山光一（早稲田大学名誉教授）

1 CHILDREN IN BIOECOLOGICAL LANDSCAPES OF DEVELOPMENT

Marc H. Bornstein and Tama Leventhal

生物生態学的発達観における子ども

根ヶ山光一（早稲田大学名誉教授）

2 HUMAN DEVELOPMENT IN TIME AND PLACE

Glen H. Elder Jr., Michael J. Shanahan, and Julia A. Jennings

時間と空間における人間発達

岡林秀樹（明星大学）

3 CHILDREN'S PARENTS

Marc H. Bornstein

子どもたちの親

大藪 泰（早稲田大学名誉教授）

4 CHILDREN IN DIVERSE FAMILIES

Lawrence Ganong, Marilyn Coleman, and Luke T. Russell

多様な家庭における子どもたち

則松宏子（トマールーズ・ジャン・ヨレス大学）

5 CHILDREN IN PEER GROUPS

Kenneth H. Rubin, William M. Bukowski, and Julie C. Bowker

仲間集団における子ども

安藤明人（武庫川女子大学）

6 EARLY CHILDCARE AND EDUCATION

Margaret Burchinal, Katherine Magnuson, Douglas Powell, and Sandra Soliday Hong

幼児期の保育と教育

岩立京子（東京家政大学）／北野幸子（神戸大学）

7 CHILDREN AT SCHOOL

Robert Crosnoe and Aprile D. Benner

学校での子どもたち

加藤弘通（北海道大学）

8 CHILDREN'S ORGANIZED ACTIVITIES

Deborah Lowe Vandell, Reed W. Larson, Joseph L. Mahoney, and Tyler W. Watts

子どもの組織化された活動

大久保智生（香川大学）

9 CHILDREN AT WORK

Jeremy Staff, Arnaldo Mont'Alvao, and Jeylan T. Mortimer

働く子どもたち

下村英雄（労働政策研究・研修機構）

10 CHILDREN AND DIGITAL MEDIA

Sandra L. Calvert

子どもとデジタルメディア

家島明彦（大阪大学）

——下巻——

11 CHILDREN IN DIVERSE SOCIAL CONTEXTS

Velma McBride Murry, Nancy E. Hill, Dawn Witherspoon, Cady Berkel, and Deborah Bartz

多様な社会的文脈の中の子ども

平林秀美（東京女子大学）

12 CHILDREN'S HOUSING AND PHYSICAL ENVIRONMENTS

Robert H. Bradley

子どもたちの住居と物理的環境

南 博文（九州大学）／山下智也（北九州市立大学）

13 CHILDREN IN NEIGHBORHOODS

Tama Leventhal, Véronique Dupéré, and Elizabeth A. Shuey

近隣社会における子ども

小島康生（中京大学）

14 CHILDREN AND SOCIOECONOMIC STATUS

Greg J. Duncan, Katherine Magnuson, and Elizabeth Votruba-Drzal

子どもと社会経済的地位

向田久美子（放送大学）

15 CHILDREN IN MEDICAL SETTINGS

Barry Zuckerman and Robert D. Keder

医療の場面における子どもたち

榊原洋一（お茶の水女子大学名誉教授）

16 CHILDREN AND THE LAW

Elizabeth Cauffman, Elizabeth Shulman, Jordan Bechtold, and Laurence Steinberg

子どもと法

外山紀子（早稲田大学）

17 CHILDREN AND GOVERNMENT

Kenneth A. Dodge and Ron Haskins

子どもと政府

荒川 歩（武蔵野美術大学）

18 CHILDREN IN WAR AND DISASTER

Ann S. Masten, Angela J. Narayan, Wendy K. Silverman, and Joy D. Osofsky

戦争と災害における子どもたち

氏家達夫（名古屋大学名誉教授）

19 CHILDREN AND CULTURAL CONTEXT

Jacqueline J. Goodnow and Jeanette A. Lawrence

子どもと文化的文脈

吳 宣児（共愛学園前橋国際大学）／渡辺忠温（東京理科大学）

20 CHILDREN IN HISTORY

Peter N. Stearns

歴史の中の子どもたち

廣瀬翔平（立命館大学）／サトウタツヤ（立命館大学）

21 ASSESSING BIOECOLOGICAL INFLUENCES

Theodore D. Wachs

生物生態学的影響力の評価

莊厳舜哉（保育・子育てアドバイザー協会関西）

本書の特色



- ①世界中の心理学者に愛用されているWileyの定評ある発達心理学ハンドブックの本邦初訳。
- ②原題に「発達科学(Developmental Science)」の文言が追加され、より広範な視点から児童の発達に関する最新の知見を網羅。
- ③「理論と方法」「認知過程」「社会情動の過程」「生態学的情況と過程」の4本を柱として、88本の論考を収載、児童発達に関するあらゆるトピックを掲載。
- ④総勢115人の心理学者の翻訳による本文はもちろん、文献情報も満載の圧倒的ボリューム。
- ⑤ユーザーの便宜を考慮して、目次・索引は別冊として付録。
- ⑥発達心理学をはじめとする心理学研究者、大学院生、学部学生のみならず、他領域の研究者、実務家必読必携の基本図書。大学・短大図書館、公共図書館、各種研究機関、調査機関、自治体等必備のセット。



 福村出版 | 〒113-0034 東京都文京区湯島2-14-11
<https://www.fukumura.co.jp> TEL 03-5812-9702 FAX 03-5812-9705

注文書

◆福村出版

児童心理学・発達科学ハンドブック

【全4巻(8冊)+索引(別冊)】

◎定価 220,000円(税込) ISBN978-4-571-23510-8

部 注文します

お名前

取扱い書店

ご住所 (〒 -)

お電話番号